

宮坂建設工業が災害防止対策会議

気を引き締め作業進めて

追い込み期を前に要請



発生する」と強調。さらに、単純な作業・工程の際に発生する確率が高いとし、「気を引き締めて作業に当

【帯広発】宮坂建設工業（株）宮坂寿文社長は二十四日、帯広市内のとかち館で工事追い込み期災害防止対策会議を開催した。宮坂社長をはじめ、役員・協力会社社員約二百三十人が出席。今後、工事追い込み期・厳冬期を迎えることから、さらなる安全衛生知識・安全意識の向上に向けて、情報共有を図った。開会に当たり、宮坂社長があいさつし「写真」。『重大災害は、現場の不注意というよりも担当者・現場作業者の意識の欠如によって

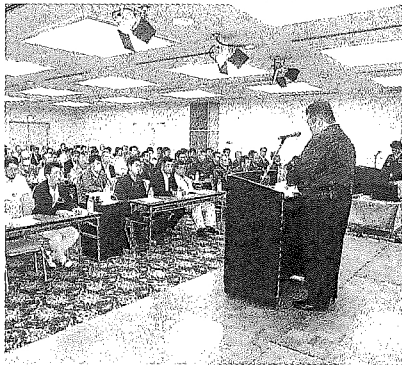
第一・事故の撲滅に向けて、我々も現場と一体となった取組を進めていきたい」と述べた。このあと、巻田卓雄労働安全室長が「工事追い込み

工事追い込み期 不安全行動減らせ

けが人出さない精神で

宮坂札幌支店も対策会議開く

宮坂建設工業（株）の札幌支店（佐々木勝幸支店長）も二十五日、札幌サンフラザで「工事追い込み期災害防止対策会議」を開き、協力会社関係者とともに、冬場に向けての安全徹底の共通認識を確認した「写真」。役員や協力会社の関係者約二百人が参加した。あいさつした宮坂寿文社長は、安全、品質確保に関連して、「今、専門技能者、職人の劣化を痛感している。協力業者の皆さんと具体的に解決しないと大変なことになる」と不安を吐



りて誠心誠意、仕事をした」と述べ、理解と協力を求めた。

安全衛生委員長の有川進副社長は、七月に「飲酒運転撲滅企業」宣言を行ったことを報告。「皆さんの協力をいただきながら、飲酒運転の撲滅に向けて取組を進めていきたい」と語った。

引き続き、同社の巻田卓雄労働安全室長が不安全行動にかかわり講話。労災被災者の六割強が正しい作業手順を知らなかったデータを紹介し、知識教育不足の現状を指摘した。函館労基署長などを務めた経験者である、巻田氏は「意識的な訓練で不安全行動は減らせる」となどと安全確認の徹底を促した。

対策会議で
労災防止誓う

宮坂建設工業

【帯広発】宮坂建設工業（本社・帯広）は24日、市内のとかち館で工事追い込み期災害防止対策会議を開いた「写真」。協力会社を含めて約230人が参加。現場での不注意や安全意識の欠如など事故の発生要因を未然に防ぎ、労災の撲滅に努めることを誓った。

宮坂寿文社長は「大型工事の現場では、単純な



田卓雄労働安全室長は、つり荷の介錯ロープをつかむことに集中し、足元への注意を怠って転落した他社の事故例を紹介。「人間は2つのことを同時にできない」とした上で、動作への意識を切り替える癖を付けるよう勧めた。

工程の中で事故が起こりやすい。労災は自己管理に起因することを考えてほしい」と呼び掛けた。不安全行動について巻

会 合

◆宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）の工事追い込み期災害防止対策会議

24日、帯広市内のとちぎ館で開かれた。

出席した同社社員ら約230人を前に宮坂社長が



「発注者のニーズに応えるというわれわれの使命を全うするためにも、安全対策には万全を期す」とあいさつし写真。

有川進副社長は、今年度の道内死亡災害発生件数が9月時点で昨年度1年間にほぼ匹敵する推移になっていることを指摘し、安全意識の高揚を訴えた。巻田卓雄労働安全室長が「不安全行動を考える」と題して講話した。